

# 長畝ふるさと通信

【2014年8月号】

## ■ どうした？ニッポンの夏

日本各地で起こる局地的な大雨や落雷、そうかと思えば40度を超える超真夏日など最近のニッポンの夏はどうなってしまったのでしょうか。佐渡も昨年同様8月は雨ばかり。お盆には台風も襲来し、少なからずお米の生育に影響を与えています。



我が家のモモもいつもより一週間も早く食べ頃を迎え、夏の主役の昆虫たち(カブトムシやクワガタ、カナブンなど)も我先にと蜜を求めて群がってきます。日本の気候が「亜熱帯」にでも変化したような感じです。こんな調子では昨年同様、田んぼが乾かず・・・泥んこ稲刈りの悪夢が頭をよぎっています。

## ■ 空散(ラジコンヘリによるカメムシ防除)

お盆前の恒例行事、カメムシ防除の「空散」に立ち会いました。早朝4時30分集合、軽い打ち



合わせの後5時からスタートです。辺りはまだ薄暗く、朝もやがかかっています。ラジコンヘリのエンジンがけたましく響いた瞬間、3羽のトキが驚いて飛び立っていきました(一瞬だったのでカメラのピントも合っていないんですが・・・)。せっかくこれからお食事という時に申し訳ないことをしました。しかし、これも人間とトキとが共生していくうえで避けては通れない問題のひとつです。

空散は農業共済組合があらかじめ散布希望のとりまとめをし、地図の黄色い場所が防除する田んぼの印です(ちなみに赤は無農薬栽培の田んぼで絶対に農薬を散布してはいけないという印です)。散布チームはこの地図を頼りにラジコンヘリを飛ばして農薬散布を実施していきます。右の地図で散布が完了するのがおよそお昼の12時頃、約7時間の作業です。



ラジコンヘリを操作するのは茨城から来た業者さんです。オペレーターの田んぼを挟んだ対角線には確認係がおり、田んぼの隅々まで農薬が散布されているかを確認しながら、無線でオペレーターに細かい指示を出しています。業者さん曰く「佐渡の田んぼは畦草が丁寧に刈り込まれていて仕事がしやすい」そうです。ちょっと、うれしい。

このラジコンヘリ、1台なんと1,000万円也。それでも5年で償却するそうです。GPSが搭載されており、空中でのホバリングも自動操縦でやれるとか…。新潟の過疎地では、田植えの出来なくなった高齢者の田んぼで、ラジコンヘリで田んぼに直に種籾を散布する取り組みがニュースで取り上げられていました。近い将来、佐渡もトキと一緒にラジコンヘリが舞う風景が日常化するかもしれませんね…。



## ■ トマトも頑張る！

3年目を迎えたトマトの養液栽培。今年はカゴメの契約栽培で中玉トマトに挑戦しています。順調に生育し、お盆頃から出荷し始めました。収穫作業は早朝5時30分から2時間程度。一度の収穫で200~300kg(多いときは400kgの時も)。選別してJAに出荷すると半日が終わってしまいます。高校野球もゆっくり見る事ができません。





## ■ お米屋さん現地視察交流会

8月24日、今年で6回目となったお米屋さんを佐渡へ招いての「現地視察交流会」を開催しました。今回は山梨や大阪方面から4件のお米さんが参加してくれました。収穫前の田んぼや稲の生育状況などを熱心に視察され、意見交換会では「コメの販売環境はこれまでに無く厳しいが、とにかく品質にこだわって自信を持って販売できるコメを作って欲しい」と檄を飛ばされました。コメの消費低迷や25年産米の過剰在庫などから26年産米はJAの買い取り価格も大幅に減額され、コメ相場は大混乱が予想されています。このままの状況が続けば廃業を余儀なくされる生産者やコメ関連業者も少なくないそうです。「環境保全型農業なんて言ってもらえない」「大量生産でコストを下げなければ」などとせっかくこれまで佐渡米の作り上げてきた物語を根底から覆そうとする動きも残念ながら見えてきました。私たちはこれまで取り組んできたお米作りを支持してくれるお米屋さんや消費者の皆さんの想いを大切に、ブレ無いコメ作りに励んでいきたいと思えます。上の写真は春に就航した新造船「ときわ丸」(ボクはまだ乗ってません)。左は交流会で振る舞ったかあちゃんたち渾身の手料理の数々(いつもありがとう)。



り上げてきた物語を根底から覆そうとする動きも残念ながら見えてきました。私たちはこれまで取り組んできたお米作りを支持してくれるお米屋さんや消費者の皆さんの想いを大切に、ブレ無いコメ作りに励んでいきたいと思えます。上の写真は春に就航した新造船「ときわ丸」(ボクはまだ乗ってません)。左は交流会で振る舞ったかあちゃんたち渾身の手料理の数々(いつもありがとう)。

## ■ GSH活動「幸せって何？」

3年前、ブータン王国へ行き、GNH(gross national happiness 国民総幸福量)について学び、仲間と佐渡盤GNH=GSH(gross sado happiness)クラブをつくりました。「佐渡における幸福とは何だろう」をテーマに細々と活動しています。佐渡は国際保護鳥「トキ」が野生生息し、世界農業遺産にまで認定された注目の島です。一方で人口は5万人を切り、今では毎年1000人ずつ減少し、農業をはじめとする産業に明るい見通しはありません。そんな島で生きていく島民の幸せとは何でしょう、何を幸せと感じれば良いのでしょうか。そんな折、8月にブータン王立大学の方々が来島され、交流しました。「経済的発展が必ずしも幸せではなく、心の豊かさとのバランスが大切」なんだそうです。

皆さんにとって幸せとは何ですか?「佐渡の新米を食べた時」なんて思って頂けたら最高です。新米、ご期待下さい。

